

平成30年度自己点検評価総評

平成30年度 神戸市立小磯記念美術館自己点検評価について

神戸市立小磯記念美術館条例第1条は、美術に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に市民の利用に供し、その教養、調査研究等に資するために必要な事業を行うことを目的として、神戸市立小磯記念美術館を設置することを定めており、同3条で第1条に掲げる目的を達成するために次に掲げる事業を行うとし、

- (1) 美術品、美術に関する文献、複製等の資料（以下「美術館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 美術館資料に関する専門的かつ技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 美術館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (4) 講演会、講習会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (5) 他の美術館、学校その他の関係機関と連絡し、及び協力すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事業を定めている。

小磯記念美術館では、同条例第3条の事業について、(1) 資料、(2) 調査研究、(3) 報告、(4) 普及、(5) 連携の5つを事業項目の柱として位置づけ、自己点検評価を実施する。

また、美術館事業を行うにあたり、美術館の経営についても考慮する必要があることから、(6) 美術館の管理運営に関する事項についても、併せて自己点検評価を実施する。

平成30年度の神戸市立小磯記念美術館自己点検評価の「総評」は下記のとおりです。

【総評】

トータル評価としては、事業項目6つのうち「普及」のみA、残りの5つはBとなった。

(1) 資料について 「B」

資料については、35点の新規収蔵があり、保存管理においても大規模なくん蒸、資料補修を行ったり、通常とは異なる防水工事に伴う収蔵庫内での作品保護を行うなどした。展示では、没後30年展において小磯良平と西洋との関わりに焦点を絞ったり、版画家として国際的に評価の高い浜口陽三、南桂子の二人展を子供向け企画として行うなど、従来と異なる切り口で開催した。資料の市民利用という視点では、多くの方に足を運んでもらうことが必要であり、今後も継続的な入館者増の取り組みが必要である。

(2) 調査研究について 「B」

連携講座や、講演会、出前トークなどを、大学での発表・シンポジウムなどを含め、昨年度の9件を上回る14件実施した。当館の展览会や活動の紹介、顕彰作家への調査研究の発表などでは、大阪市立大学での講演・シンポジウムで小磯良平の同大学関係者の肖像画についての最新の研究発表がなされるなど、成果があった。その一方で、外部から依頼を受けたものの、当館の展示や顕彰作家の紹介、入館促進に直接結びつかなかった講座もあり、各学芸員の負担や本務への影響を考慮する必要がある。

(3) 報告について 「B」

例年どおり、特別展ごとの図録発行、年2回の美術館だより発行、年度末の年報の編集・公開を行い、とりわけ、没後30年展の図録においては、論文、コラム、解説などで、館長を含む学芸員職全員の調査研究の成果を示すことが出来た。公式HPは月平均2回、公式フェイスブックは月平均2.5回の更新であった。今後は、各特別展において内容の充実した図録の編集に努めるとともに、SNSについては、フェイスブックでの発信回数を増やし、さらに若い世代対策としてのインスタグラムなどでの発信の検討も必要と思われる。

(4) 普及について 「A」

ギャラリーツアーを毎日曜日、マンスリーコンサートを毎月第3日曜日、美術講座を毎月第3金曜日に実施し、他に、講演会、夏休み特別企画に絡めた子供向け・大人向け講座等を適宜開催した。講演会の一つは画家の石坂春生氏にインタビューした内容を岡館長が語るもので、台風で対談中止に伴う急な別日の開催であったが、85名参加と好評であった。12月に降休館となったが、補完的にマンスリーコンサートの特別編を館外で開催するなど普及活動に努めた。各イベントについては参加者の満足度も高く、今後も継続的に実施したい。

(5) 連携について 「B」

所蔵作品の館外貸出（12件、56点）、画像の特別利用（11件、15点）を行い、小磯良平や神戸ゆかりの画家の芸術の普及に努めた。小磯の没後30年であったため、前年度末の愛媛、兵庫に続いて小磯作品の貸出希望が多く、呉の美術館へ32点をまとめて出展するなどした。

また、学校園団体受け入れ（38校園・2,626人）と、出張授業（47回・1,592人）を行い、子供たちが美術館や芸術作品に触れる機会を提供した。秋には地域の大学や施設と連携してアートイベント「RICあそ美ば」を開催し、のべ3,400人余りの集客があった。美術館を知ってもらうよい機会にもなるため今後も実施を予定している。

(6) 管理運営事項について 「B」

執行額は予定の枠内に収めることはできたが、入館者数は目標に達しなかった。

29年度実績を基に定めた目標に達しなかったことについては、特別展開催期の休日に台風が通過した影響が大きいのが、引き続き小磯記念美術館の認知度アップを含め魅力ある美術館運営に努めていきたい。

以上の自己点検評価において、担当者自らも問題点・課題を意識することで、次年度に向けての改善点をスパイラルアップできるようPDCAを実施していく。